

92歳「駆けつけ警護は戦争」

介護福祉士

(岡山県 49)

私が勤めるサービスマス付き高齢者向け住宅で先日朝、入所者の皆さんの血圧・体温測定をしていた時のこと。92歳の男性の部屋にうかがったらテレビでニュースを見ておられ、突然こう言われました。

「駆けつけ警護をするということは、日本は戦争をするということですよ」。何を突然と思ったのですが、忙しくて時間がなく、私は「そうですね」とだけ言葉を返して、次の部屋へ向かいました。

15日、安倍内閣が南スーダンの国連平和維持活動(PKO)派遣の陸上自衛隊部隊に「駆けつけ警

護」の新任務を与えるとのニュースを知って、あの朝のことを思い出しました。92歳の男性は第2次世界大戦末期の沖縄戦に出陣した元戦闘機パイロット。

1945年3月、九州の飛行場に配属。沖縄へ向かう特攻機を敵機から守り、送り届けるのが任務だったといいます。特攻機の援護が彼の任務だったのです。多くの特攻隊員を戦争で失いました。

「警護」と「援護」はニュアンスが異なるけれど、彼は駆けつけ警護に、新たな戦争の危機を感じておられるのです。私はいま、従軍体験者の言葉の重さを感じています。